





青を灯せ。



www.toyo.de



フォルトウナファンの皆様へ

Liebe Freunde von Fortuna Düsseldorf



フォルトウナ・デュッセルドルフ
日本デスク
薬丸隼人
廣岡太貴

Fortuna Düsseldorf
Japan Desk
Hayato Yakumaru
Taiki Hirooka

未だ去ることのないコロナパンデミックの中、行く年を惜しみながらも、来年こそは世界にとって新たなスタートにと希望を馳せるこの頃、日本デスクは14年目を迎えております。我々は皆様の温かいご支援のおかげで、日本デスクの継続、及び発展を実現することが出来ております。この場をお借りし、日頃よりフォルトウナを応援していただいている皆様へ、心より感謝申し上げます。

2008年10月に設立された日本デスクは、2019年7月より新体制でスタートしました。そして今回、2009年8月に創刊となったフォルトウナ通信が記念すべき第50号を迎えることとなりました。オリンピックが東京で開催された記念すべき年に第50号をリリースできることをとても光栄に存じます。

フォルトウナには現在多くの日本人が所属しており、トップチームにはオリンピックで大活躍を果たし、今では日本代表でも欠かせない存在となった田中碧とドイツU21代表で10番を背負うアペルカンプ真大、U23チームには将来有望な内野貴史、またフットサル・チームにはフットサル・ブンデスリーガの創設メンバーであり、初の日本人フットサルブンデスリーガ選手となった鈴木歩夢、吉田康也、そして我々日本デスクの薬丸隼人、廣岡太貴を含めると、7人の日本人が所属しております。

現在は2部リーグではありますが、サッカー欧州5大リーグの一つであるブンデスリーガに所属するクラブとして、そしてまた日本デスクを構える唯一の欧州クラブとして、日本人のサッカーファンの皆様にもっと身近な存在になっていけるよう、これからもさらに尽力して参りますので、引き続きフォルトウナ・デュッセルドルフをどうぞ宜しくお願い致します。

Impressum

>>フォルトウナ通信<<

Flinger Broich 87
40235 Düsseldorf

Herausgeber 発行元:

Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.

Leitung 情報管理:

Kai Niemann (medien@f95.de)

Redaktion 編集:

Taiki Hirooka 廣岡太貴

Hayato Yakumaru 薬丸隼人

(japandesk@f95.de)

Fotos 写真:

Christof Wolff

F95

Layout レイアウト:

Hayato Yakumaru 薬丸隼人

Christian Lewandowski



日本デスクの歴史

2008

7月:日本人初会員
丸尾総領事(当時)

10月:日本デスク設立

12月:日本人学校・
スタジアム見学



1月:ウインターカップ
日本人エスコートキッズ



3月:ベーカリー鷹で
フォルトウナデーを開催



5月:日本デーに出店



2009

8月:結城耕造を獲得



8月:フォルトウナ通信創刊



12月:日本人学校・
スタジアム見学

1月:ウインターカップ
日本人エスコートキッズ



3月:フォルトウナデー開催



5月:日本デーに出店



2010

7月:ユース年代日本人加入



8月:日独交流会を開催



12月:日本人学校・
スタジアム見学

1月: ウィンターカップ
日本人エスコートキッズ



3月: 日本人学校訪問



3月: 日本人学校招待



5月: 日本デーに出店



11月: フォルトゥナ授業
・スタジアム見学



1月: ウィンターカップ
日本人エスコートキッズ



5月: 日本デーに出店



5月: 1部リーグに昇格



2012

7月: 廣岡太貴が
U23チーム加入



11月: フォルトゥナ授業
・スタジアム見学



1月: 大前元紀を獲得



4月: 大前元紀サイン会



5月: 日本デーに出店



2013

11月: 日本コミュニティー
に向けたイベントを開催



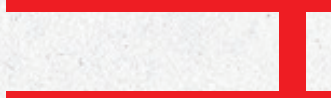
11月: フォルトゥナ授業
・スタジアム見学



1月: ウィンターカップ
日本人エスコートキッズ



5月: 日本デーに出店



6月: モバイルスクール



6月: 日本語版
ホームページ開設



2014

7月: 川口和也が
U9チーム加入



11月: ツイッターを開設



11月: フォルトゥナ授業
・スタジアム見学



4月:日本クラブとキッズ・クラブイベント



5月:日本デーに出店



1月:ジャスティン金城プロ契約



4月:日本コミュニティに向けてイベントを開催



1月:橋下峻弥がU23チーム加入



1月:中村亮太コーチがユース研修



1月:原口元気を獲得



3月:宇佐美、原口、金城のサイン会を開催



2015

7月:アペルカンプ真大がU16チーム加入



5月:ジャスティン金城日本人学校訪問



5月:日本デーに出店

2017

7月:U23チームが三宅海斗を獲得



5月:1部リーグに昇格

5月:日本デーに出店

2018

11月:日本人学校・スタジアム見学



5月:日本デーに出店

2016

7月:伊藤遼哉がU19に加入



8月:宇佐美貴史を獲得



9月:フォルトゥナ会長(当時)が日本へ出張



9月:アカデミーダイレクター研修を実施



9月:宇佐美貴史サイン会



9月:U17チームが大坂ユース大会に参加



11月:日本人学校授業・スタジアム見学

日本デスクの歴史

5月:日本デスク独自の
ユーチューブ・
チャンネルを開設

5月:日本デーに出店

6月:フットサルチームが
鈴木歩夢を獲得

2019

9月:アペルキャンプ真大
プロ契約



10月:Jリーグ視察団の
受け入れ



11月:日本人学校
授業・スタジアム見学



12月:日系企業を対象とした
イベント、フォルトゥナ・
ミーツ・ジャパンを開催



5月:コロナパンデミックで
日本デーが中止に

6月:フォルトゥナ2部へ降格

6月:瀬田元吾が
日本デスクを退任



2020

7月:廣岡太貴と薬丸隼人が
日本デスクに就任



11月:コロナパンデミックの
規制により、バーチャル
スタジアム見学

2月:中央大学オンライン・
フォルトゥナ研修



5月:高橋陽一先生が
ユニフォームに描画



2021

7月:田中碧を獲得



7月:U23チームが
内野貴史を獲得



7月:フットサルチームが
吉田康也を獲得

9月:日本デーに出店

9月:フットサル・ブンデスリ
ーガ初期メンバーに日本人

10月:スカパー！が
フォルトゥナの試合を配信

11月:トニー物語・日本語版
リリース

歴代日本人プロ選手



結城構造

生年月日: 1979年1月23日
 出身: 横浜
 ポジション: DF
 所属期間: 2009年7月1日-
 2010年6月30日
 出場記録: 2部リーグ: 2試合
 レギオナルリーグ: 14試合



大前元紀

生年月日: 1989年12月10日
 出身: 横浜
 ポジション: MF
 所属期間: 2013年1月1日-
 2014年8月12日
 出場記録: 1部リーグ: 7試合
 2部リーグ: 1試合
 ドイツ杯: 1試合

宇佐美貴史

生年月日: 1992年5月6日
 出身: 長岡京
 ポジション: MF
 所属期間: 2017年8月30日 -
 2019年6月30日
 出場記録: 1部リーグ: 19試合
 2部リーグ: 28試合
 ドイツ杯: 3試合



原口元気

生年月日: 1992年5月9日
 出身: 熊谷
 ポジション: MF
 所属期間: 2018年1月23日 -
 2018年6月30日
 出場記録: 2部リーグ: 13試合



金城ジャスティン俊樹

生年月日: 1997年2月22日
 出身: 沖縄
 ポジション: MF
 所属期間: 2016年1月30日 -
 2018年8月17日
 出場記録: 2部リーグ: 1試合
 ドイツ杯: 1試合
 レギオナルリーガ: 54試合



田中
碧石

サッカーができれば何でも



サッカーを始めたきっかけは何だった？

気付いたらサッカーやってました。幼稚園に通っていた時に友達と公園で始めたのが最初だと思います。

碧にとってサッカーとは？

始めた当時は楽しくて始めましたが、今は仕事です。笑

憧れていた選手入る？

当時はフォワードをやっていたのでシェフチェンコに憧れていました。小学校4年生の時に今のポジションに転向したのですが、今考えるとこれだけ早くから同じポジションをやっていることもすごいですよね。

フォルトウナと繋がったきっかけは？

僕自身はコンタクトがなかったのですが、興味を持ってもらっているということで結果的にフォルトウナに加入する形になりました。

フォルトウナを選んだ理由は？

海外をオプションの一つとして考えていた時にフォルトウナが1番最初に興味を持ってくれて、オファーをくれたのが大きな決め手となりました。

実際にフォルトウナの選手になってみて感じたことは？

サポーターの熱量が違いますね。フォルトウナに限ったことではなく、アウェーにいってもそうですが、すごく熱狂的なファンが多いというのは感じますね。後は色々な部分でドイツ人が適当というわけではないですが、海外に出て日本の方が親切だということを感じています。

フォルトウナに来て成功できたと思うことは？

まだ何も成功できてないです。

フォルトウナに来てから壁に当たったことはあった？

慣れるのがすごく大変でした。自分で

はストレスを感じていないと思っていたのですが、今考えるとストレスを感じていたと思います。それは練習時間もそうですし、練習内容やロッカーもそうだと思います。前クラブでは練習後に毎回食事を出してもらえたり、それも大きかったなと思います。そしてサッカーだけではなく、私生活でも慣れるまでは大変でしたし、人間関係も同じです。僕は言葉ができなくて、コミュニケーションも取れないので、そこもストレスになっていました。今は大分慣れましたし、サッカーが充実していれば何もストレスに感じなくなります。

フォルトウナで仲良い選手は誰？

いや、いないですね。笑

クバ(ヤコブ・ピオトロフスキ)とは仲が良いというか彼がすごく話してくれるので話を聞いていますね。真大は言葉の壁がないので色々話しますが、ハーフということでドイツ人の感覚も多いです。そういう意味では貴史が1番話の波長が合いますね。特に何かが変わるといわけではないですが、彼がトップの練習に参加していると少し気持ちが落ち着いています。ただ、サッカーができれば何でも良いですし、今は練習中に困ることはほとんどないです。

これからの目標は？

まずはフォルトウナで怪我なく、チームの1試合1試合の勝利に貢献したいです。そして常に上を目指してプレーをしたいです。



アペルカン 真大

ユース年代では経験出来ない



サッカーを始めたきっかけは何だった？

お父さんとお兄ちゃんがきっかけで、いつも公園に連れて行ってもらってボールを蹴っていたのが始まりでした。

真大にとってサッカーとは？

サッカーは私生活のことを忘れて集中できますし、もしサッカー以外の部分であまり上手くないってなくても、サッカーが上手くいってれば他は気にならなくなるので、ピッチの上で楽しむことが僕にとってのサッカーです。

憧れていた選手はいる？

好きだった選手というよりは、ユニフォームを集めるのにハマっていて、日本のスポーツショップでセルヒオ・ラモス選手や、ルイス・スワレス選手など、ポジションは違いますが彼らを好きでユニフォームを買ったのを覚えています。今でも探せばどこかにあると思います。

フォルトゥナと繋がったきっかけは？

2015年にデュッセルドルフに引っ越してきたのですが、U16チームの練習参加をさせてもらい、合格をもらえたのでフォルトゥナでサッカーができるようになりました。日本にいた時はあまり関係性はなかったですね。

フォルトゥナを選んだ理由は？

引っ越して来た時にサッカーチームを探していて、やはりデュッセルドルフといえばフォルトゥナだったので、練習参加をしました。

実際にフォルトゥナの選手になってみた心境は？

フォルトゥナはドイツで誰もが知ってい

るクラブですし、すごく伝統のあるクラブでもあるので、そういったクラブでプレーしているということは常に頭にあります。今はプロサッカー選手になって、ユース年代と違うところも多く感じますし、プロという自覚を持ってやっています。

フォルトゥナに来て1番の成功は？

ウヴェ・ルスラー監督の下でプロ1年目から信頼を置いてもらい、怪我をしていない時はほとんどの試合に出ていました。試合に出場するだけでなく、得点も多く挙げることができました。特に終盤では4試合連続ゴールなども記録しましたし、昇格こそ逃しましたが、上位を争うこともできたので、僕にとってはプロ1年目ですごく良いシーズンになったと思います。

フォルトゥナに来てから壁に当たったことはあった？

1年目から続く怪我ですね。ユース年代の時は全く怪我をしなかったですが、プロの世界に入ってから厳しい戦いも多いので怪我が多くなってしまい、苦労しています。もう一つは、デュッセルドルフという大きなクラブでプレーしているので、ファンは大きな期待をしています。ですので、チームの成績が良くなければ批判もありますし、自分のプレーがよくなければメディアにも書かれてしまいます。これはユース年代で経験できないことだったので、これがプロの世界だと実感しましたし、プレッシャーや責任感も大きくなりました。

フォルトゥナで仲良い選手は誰？

やはりユース上がりの選手が多いですね。もちろん一緒にプレーをしていたジャミール(・ジーバート)、ニケル(・トグロ)、エマ(エマヌエル・イヨハ)はとても仲が良いです。田中碧選手もそうですが、日本人選手が来れば仲良くなります。後、僕は英語を話せる環境を作りたいと思っているので、ドイツ人ではないクバ(ヤコブ・ピオトロフスキ)、クリス(クリストファー・ペーターソン)、レオ(レオナルド・クトリス)ともすごく仲良くしていますし、英語も上達しています。

これからの目標は？

今シーズンの1番の目標はなるべく怪我なくプレーすることです。得点やアシストは記録に残るものなので、試合に出て結果を残すことも大事です。もちろん得点などでチームの勝利に貢献したいです。



U23チーム

内野 貴史

誰もが知っているクラブで



サッカーを始めたきっかけは何だった？

サッカーを始めたきっかけは親が俺にスポーツをやらせたいということで野球、バドミントン、サッカーで、サッカーがダントツ面白くて、自分からサッカーがやりたいってなりました。

貴史にとってサッカーとは？

サッカーがない生活が今は想像ができないので自分の人生の一括りの中にサッカーがバシッとハマってます。3食ごはんを食べると同じ感覚ですね。

憧れていた選手はいる？

単純にサッカーを始めた当時すごいなと思ったのはクリスティアーノ・ロナウドですね。G大阪対マンUがクラブW杯で点の取り合いを繰り広げた試合をライブで観ていて、その時にちゃんとロナウドのプレーを観たのですが、カッコ良すぎました。子供の頃によくある、ただただ憧れる選手はロナウドでした。

フォルトゥナと繋がったきっかけは？

僕はドイツの誰もが知っているクラブでプレーすることを目標にドイツへやってきたのですが、ユース年代でやっていた頃はそういったクラブからオファーがもらえず、フォルトゥナのU23と同じ4部ではありますが、地域のチームにはいりました。そこからシーズンをプレーしていく中で、フォルトゥナの方から声をかけてくれました。

フォルトゥナを選んだ理由は？

日本人が誰でも知っているようなチームでプレーしたいという目標を持ってドイツへ来て、その中で誰よりも早く声を掛けてくれたのがフォルトゥナでした。初めてそういうチームから声を掛けてもらったその瞬間が嬉しくて、他にも声を掛けてもらっていたのですが、フォルトゥナに決めました。

実際にフォルトゥナの選手になってみた心境は？

フォルトゥナのリュックを背負って街を歩いていると、今日試合？とか街で声をかけられますし、言い過ぎかもしれないですが、そういう風に「頑張ってる」や「昨日試合勝ったね！」などと声をかけられると、街を背負っているなって思います。今まではクラブのワッペンがついた服を着ていても特に声を掛けられませんでした。今はU23でも関係なくフォルトゥナファミリーとして、街の代表じゃないですけど、街を背負っているという責任感があるので、フォルトゥナの選手ということに常に自覚して生活しています。

フォルトゥナに来て大きく変化したことはあった？

現在はU23チームですが、前に所属していたチームはトップチームが4部に所属していたので、ロングボールが多かったり、結果を追求しすぎて、1-0になった時に守りに入るということが普通で、ファンも含めて勝ち点を少しでも多く取るサッカーという感じでした。しかし、フォルトゥナではミチャティー監督もチームも1-0のリードの状況で「もう1点とってこい」と言いますし、そういう姿勢になります。それは2-0でも3-0でも同じで、「自分たちはこれを目指していない」常にもっと上へというスタンスでサッカーをしますし、そういう指導をしてもらえます。それは今いる4部ではなくもっと上を目指している自分の姿勢とマッチしています。フォルトゥナでは勝つことに加え、自分が常に成長できる指導をしてくれるので、それが前に所属していたクラブとの差だと思います。

フォルトゥナに来てから壁に当たったことはあった？

前クラブはU23と同じリーグで、そこではスタメンに定着していて絶対に試合に

出れるという感覚がありましたが、フォルトゥナに来てからは気を抜いたり少しでも調子が落ちるとレギュラーから外されるというプレッシャーは常に感じています。そして現在はトップチームにも参加させてもらっていて、プロの選手と練習をすることで自分もこういうレベルでやりたいと思うのですが、今の自分とトップを比べるとまだ大きな差があると実感しています。すごく身近な存在でありながらも、もっともっと頑張らないといけないですし、すごく距離を感じています。なので、自分が目標としているトップの練習に参加させてもらって明確になっているレベルの差に焦りを感じてしまっています。

フォルトゥナで仲良い選手は誰？

一つ年下のU19から上がってきたセバステイアン・パパリアは練習前に一緒にボールを蹴りますし、左サイドバックのメアト・グーガンは同じポジションの選手としてよくサッカーの話をします。もちろん練習中はお互いにポジション争いもあるのでガツガツいきますし、そうしないとチームになっていかないと思います。それでも練習後、ローカールームに戻ると1人の選手としてコミュニケーションを取りますし、オンとオフの切り替えだったり、人間関係の作り方がうまいと思います。ただ、掴み合いになることもあるぐらい人格の変わり方はすごいです。そういうときも他の選手が間に入ったり、喧嘩した選手の関係が崩れないためのコミュニケーションの取り方は選手、監督含めですごくうまいと思います。

これからの目標は？

まずはトップチームに辿り着くことが一番の目標です。それより上のことを考えるのは目の前の目標である2部の舞台に立ってからです。

やっとスタートラインに



鈴木歩夢

フットサルを始めたきっかけは？

僕がフットサルを始めたのは19歳の時で、元々は高校までサッカーをやっていた、大学に入ってからサークルでサッカーを続けていたんですけど、何か面白くなくて。たまたま遊びでフットサルをする機会があり、その時に面白いなと思って色々調べていたらフットサルにも競技があることを知って、そこからチームを探し始めました。一番のきっかけはやっぱり面白そうだったからですね。正直、高校サッカーで出し切ったというか、一度サッカーへの情熱がなくなった時に出会ったのがフットサルでした。

フォルトゥナを選んだ理由は？

代理人を通してドイツに来たんですけど、その人から紹介してもらったチームがたまたまフォルトゥナで、取りあえずチーム練習に参加してみたら入団許可がおりてそのまま加入という流れでした。過去のチーム成績も地域の中では良い方だったので、他のチームに練習参加したりというのはなかったですね。

フォルトゥナに来てよかったことは？

僕は日本でも社会人チームでプレーしていたので、それとの違いというか比較してという感じになるんですが、待遇面としては環境の良い練習場所が確保されていたり、身の回りのものが支給されたり、少しではありますが給料という形でお金が出たりするということは日本のフットサルにはない部分です。フットサルをしながらお金ももらえるという良い環境でできているので来てよかったと思います。

後はもちろん、デュッセルドルフという日本に似た住みやすい環境があることが嬉しいですね。

フットサルブンデスリーガ初の日本人選手になった気持ちは？

去年の話になるんですけど、コロナの状況もあって、ブンデスリーガが本当にできるのかどうか、まだ試合を消化していない中でリーグ昇格がどうなるのかっていうのがわからない状況が長く続いて、その最終決定を知ったのは一人で家にいる時だったので、そこまで実感が湧かなかったというのが正直なところですね。嬉しいと言うよりも、どっちかと言うとやっとスタートラインに立てたと言う気持ちが大きかったです。

フットサルブンデスリーガの魅力を教えてくれる？

僕が思う一番の魅力は熱量が凄いです。それはもちろん選手同士もそうですが、監督コーチ陣、スタッフ、相手チーム、観客など、みんな熱を持って取り組んでいるのを強く感じます。例えば、何気ないワンプレーでもすごく盛り上がったりと、点を取ったらもちろん沸きますし、逆にファウルなどの悪いプレーをしたらブーイングや罵声も凄いです。そういった面では良い意味で自分が見られているんだという感覚はあります。だからこそ、緊張感もありますけど、その環境でやれていることが楽しいです。後は日本と比べてブンデスリーガは攻撃重視のチームが多く、結構点が入りますし、ゲームの展開が早くてダイナミックなところも魅力だと思います。

今後の目標を聞かせてくれる？

個人の目標でいうと、まだ点が取れていないので、まずは点を取ってチームに貢献すること。今季のチーム目標であるリーグ残留を達成するために自分が貢献できることは点を取ったり自分のプレーで流れを変えることだと思うので、なんとしても点を取ることが目標ですね。ドイツでプレーをしていると過程よりも結果が求められていると感じるので、こういう形であれ点を取るという結果で自分をアピールしていければと思っています。

歩夢にとってフットサルとは？

僕にとってフットサルは共に成長するパートナーのようなものだと思います。どうしたら自分が良いプレーをできるのか、そのためにはどうしたら良いのか、何をすべきなのかを自分で考えて行動する必要があります。フットサルという競技も同じように、世間ではまだまだ認知されていないスポーツとして、どうしたら多くの人に知ってもらえるか、どうしたらサッカーのように盛り上がるのか、そのために僕たちは何をすべきなのかを考えないといけないと思っています。嬉しいことや楽しいことがある一方で、辛いことや苦しいこともあって、フットサルが嫌になるときもあるけれど、いつも最後は隣にいてくれるパートナーのような存在が私にとってのフットサルなんだと思います。

趣味からブンデスリーガへ



吉田康也

フットサルを始めたきっかけは？

自分はずっとサッカーをやっていて、それと並行して中学の時に1対1を強化するためにフットサルを始めました。でもそれは中学3年間だけで、その後はずっとサッカー一本でやっていたので、フットサル歴はそこまで長くありません。ドイツにもサッカーで来ました。ただ、半年が過ぎたくらいにコロナ禍になってしまい、自分の年齢も考えた上で引退しようかどうか悩んでいたのですが、自分の中でサッカーを引退したら趣味でフットサルをやろうかなと思っていたので、ドイツのフットサル事情を調べることにしました。そこで来年、フットサル・ブンデスリーガができるかもしれないという記事を読み、もしかするとフットサルに転向すれば面白いんじゃないかと考え、思い切って決断しました。たまたま今自分の住んでいるケルンに強いチームがあって、そのチームの選手の一人が自分の同居人の後輩だったんです。それからチームの会長にメールを送り、練習参加をさせてもらって入団が決まりました。

フォルトウナを選んだ理由は？

今シーズンが始まる前まではケルンのチームでプレーすると言っていたのですが、シーズン直前にフォルトウナの監督から電話があり、獲得を考えているというオファーを頂いたんです。契約書などはなかったので移籍はできる状況だったのですが、実際はすごく迷いました。というのも、やはりライバルチームですし、今回ブンデスリーガに昇格するチームを決める上でもリーグ内で少しディスカッションがあった後だったので。でも自分としてはやっぱりブンデスリーガでやりたいという思いが強かったですし、トップリーグでチャレンジしたかったので、移籍することを決めました。

フォルトウナに来てよかったところは？

環境ですね。ケルンのチームは練習場が決まっていなくて、3箇所か4箇所を点々として練習していたので、その時点で移動のロスがありましたし、練習場もちゃんとしたフットサルコートではないところもありました。それに比べてフォルトウナはちゃんとした練習場所がありますし、スタッフ陣に関しても、監督やコーチをはじめ、フィジオやキーパーコーチなどしっかりとしたスタッフ人が揃っているので、サポート体制が整っていると思います。本当に不自由なくプレーさせてもらっているので、感謝しかありません。

フットサルブンデスリーガ初の日本人選手になった気持ちは？

日本人初のフットサルブンデスリーガの選手になったという感覚は特別にはないんですけど、やっぱり1試合1試合勝つことの難しさは感じていますね。前にプレーしていたリーグは正直そこまでレベルが高くなかったので、全試合に勝つくらいの気持ちでできていたのですが、ブンデスリーガに上がったことで全体的なレベルが高くなり、今はその勝つことの難しいのを強く感じています。もちろん怪我人が出たり、サブも含めたチーム力が大事になってくると思うのですが、そこをなんとか自分の力で勝たせられるような形に持っていければと思っています。

フットサルブンデスリーガの魅力を見せてくれる？

スピード感がありますね。縦に入った時に凄くスピードが上がって、2枚3枚縦に走ってきたりとか、後は結構フィジカルな強い選手が基本的に前のポジションにいるんですが、その選手が1人でこじ開けたりとか、そういうところですね。テクニカルな部分ではそこまでレベルの高いことはやっていないと思うの

ですが、やっぱりドイツはサッカーもそうですけど、フットサルも同じでスピード感やパワフルな部分があります。その中でチームに2、3人テクニックがある選手がいて、そういった選手が魅せて試合を盛り上げたりとかするので、パワーと時にテクニックも出てくるというのがフットサルブンデスリーガの魅力ですね。後は、まだフットサルが全然ドイツに根付いてないというのが自分の感覚なので、それが盛り上がっていく過程を見られるのを本当に楽しみにしています。もちろん全然盛り上がりすぎずにアマチュア止まりになるのか、本当に凄くプロリーグに発展していくのか、どう転ぶか誰にもわからないんですけど、その過程を共に歩んでいけるのも魅力だと思いますね。

今後の目標を聞かせてくれる？

チームの目標はまずリーグ残留です。それを早い段階で確定させて、4月5月に始まるプレーオフに向けてできるだけ早く準備を行い、優勝を狙えるようなチームに仕上げていくことがその次の目標ですね。個人の目標は得点ランキングの上位に入っていくような選手になりたいと思っています。今1位が7得点で自分が3得点なので、1試合で複数得点できるような選手になることです。自分たちがあまり点を取れるチームじゃないので、自分の得点で試合を決められるような感じにしていきたいです。

康也にとってフットサルとは

今自分が一番好きなことだと思います。海外にいますので色々なストレスはあるんですが、フットサルをやっているときはそういうのを忘れられますし、1試合1試合勝ちたいとか、そこに掛ける思いが強さとかからも、やっぱり自分はフットサル好きなんだと思います。

田中碧と アペルキャンプ真大の サイン入り ユニフォームが 当たる!

応募期間

12月17日-
12月23日

応募方法:

- Twitterで@f95_jpをフォロー
- フォルトゥナ通信第50号の
投稿をコメント・リツイート
- 12月24日に当選者発表





「企業」の経済活動を総合的に学ぶ 中央大学 商学部

中央大学商学部
公式Webサイト



商学とは製品やサービスを生み出す過程とそれらの流通・交換を営む市場の経済の動きを解明する学問です。市場を牽引するのは主に企業ですから、商学では企業の活動を中心に学びます。商学部では4つの学科を通じてビジネスに関わる流通市場の営み、企業活動と管理の仕組み、ビジネスの国際展開、会計情報の作成・活用などを深めていきます。



『プログラム科目(グローバル・スポーツ・ビジネス・キャリア)』では、2月のドイツ研修に向けて準備中です!

- 経営学科
- 会計学科
- 国際マーケティング学科
- 金融学科

プログラム科目

スポーツ・ビジネスや海外企業へのインターンシップ、地域の課題解決を目的とした商品・サービス開発などに挑戦できるPBL型の講座や、公認会計士やファイナンシャルプランナー等の資格取得を目的とした講義など、将来のキャリア形成に直結する実践的な学修ができるプログラムです。

スポーツ・ビジネス・プログラム
サッカー・ビジネスに関する諸問題を学ぶことで、スポーツ・ビジネスにおいて解決すべき課題を発見し、グループワークで情報収集・分析しながら、課題解決策を立案していくプログラムです。

グローバル・プロフェッショナル・プログラム
多様な価値観、文化、習慣、課題を理解することで、英語や第二外国語の学びを深化させ、語学力を活かして海外インターンシップや国内外の実態調査に積極的に参加します。

ソーシャル・アントレプレナーシップ・プログラム
地域社会が解決すべき課題を適切に特定し、関連する情報を収集し、効果的なビジネス・ソリューションを考案するとともに、課題解決の実現に向けたイノベーションに挑戦します。

アカウンタント・プログラム
公認会計士などの高度職業会計人を目指す学生のためのプログラムです。授業では基礎から応用、さらに職業会計人として働く上での専門的・実践的な内容についても理解を深めます。

ファイナンシャル・スペシャリスト・プログラム
ファイナンシャル・プランナーや証券アナリストに興味のある学生を対象に、資格試験対策はもとより、経済や企業の分析や資産運用など社会で役立つ専門知識の習得を目指したプログラムです。

プログラム科目の最新情報は専用WebページをCheck!!



2021 / 2022
シーズン
新ユニフォーム

SHOP.F95.DE